武江年表

213.6
Sa222b

国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b

ガラス使用

江戸 日本橋 高麗屋 堂町一丁目

# 武江年表巻之六

## 明和七年庚寅　六月閏

三月十日より湯島天満宮開帳○同十日より神田明神八幡宮ゆゑ京北野社司石菊菅神宗茂像平地観世音開帳○浅草称念寺にて三尺明顕寺柳御堂聖徳太子三尊佛木開帳○四月朔日より麻布善福寺にて越後国田井波薗瑞泉寺親鸞上人宝物木絵せしむ○同日より深川雲信寺ゆゑ奥州会津大用寺釈迦如来一丈像○芽場町茶師如来開帳

○深川洋々寺ゆゑ身延山奥院祖師鬼子母神開帳○四月十二日より大日堂深川大伽藍勧進所にて二月堂観世音英宝物開帳○永代寺にて弥勒菩薩井猫塵玉平地光背帳○五月より八月迄法国大日寺近在猫ふ虫つゝ沢山出来ゆゑ



わたなべ

国立国会図書館 26.2.1

223781

国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b　ガラス使用

俗ふ氏虫とカチと云麦糠も貴し野菜物者の價ようやく
閏月祚京川の鯛三文喉食死海ハ苦塩と云りの出て惠ゆく死も ○六月上旬星月を賞めく
○麻布永坂光照寺弥陀如来開帳○六月十九日八月中旬迄田向院にて蓋
城清源寺釈迦如来開帳○同日より一ヶ月八幡宮に於て徳州布施弁才
天宇帳○青山善光寺にて殺食禁令寺内親世寺宇帳○今年浅草の釈迦
開帳あり〜より当ひおこして山岳明阿弥君釈迦文仏肖像考一奏編輯
ゆり家中にて行る○閏六月朔日より四義寺十五堂にて武州松山観音
寺毘沙門天宇帳○七月廿八日夜乾の空赤くして丹のごとく又幡雲出る
○八月十一日より田向院にて京都伏見東福寺塔頭海義院毘沙門開
帳○八月十一日夜霊巌寺本堂焼亡○八月廿一日より田向院にて高野山十
遍名号弥陀如来開帳○八月より築地本願寺にて甲斐軍福寺秋河
坊聖徳太子開帳○十一月市谷長延寺にて雲州釈迦嶽雲右清門大関と

成り雷電為右歩門一世一度の和撲興行○十一月四日宮内望月三英卒 麻門山人と号
百里の男なり ○此冬大多く死亡○十一月廿六日書家小笠原一南卒 名長和称理左衛門 牛込大信寺に葬る

明和八年辛卯

正月廿日麻布より芝辺迄焼亡○正月四日儒師宮城龍門卒 名維翰 号田
○正月廿八日書家上田素絃卒 号随古堂 浅草永昌寺に葬る ○二月日不知 村松町より出火
南品川辺焼亡浅草河岸前鮫真先稲荷の辺ふいる○二月十日より上野
清水堂千手観世寺開帳○同廿日より王子稲荷の社開帳○三月初旬
伊勢宗宮流行 不理知ず家内を悩し病死ス ○三月八日より
木下川薬師如来開帳○同五日より河岸ゑ花徒院ゑく武州比企郡長光
寺坂東九番 観世寺乾漆四天開帳○同十一日より田向院にて明暦大火焼死溺
死非車に万日回向修行○同十五日より下谷五条天神宇天満宮開帳○同廿一日

とうの不忍池弁才天開帳○二月廿九日ゟ八幡富士田楓江死（古法と云を亜の上に乗り其金形二体ある由）
○四月朔日より浅草寺法華会
○同日より不忍弁才天門内にて殖食極楽寺殺迦如来開帳○本所ゟ栖
自性院にて信濃川東南照寺弥陀如来開帳○四月朔日より浅草寺門内
ゟ上総望陀郡大久保村大日如来熊野権現開帳○戸塚町垂量
院にて奥州業折垂能寺弥陀如来垂能上人像開帳○浅草ゟ町添空ゟ
文殊并開帳○四月八日江戸雲隠る○四月八日松産家後妓梨妻卒（七十ゟ年。称太仲。桔梗屋）
（此時も九郎助稲荷の社務る今戸橋辺）○四月廿三日暁寅刻吉原揚屋町ゟ
出火廓中焼亡（西田辺へ仮宅を補理て商賣せり）○四月二日地震○五月十七日
光物飛ぶ○六月ゟ三股新地築立始る（安永元年の件ゟ記せり）○六月二日大地震
○五月浪通用止○東埔塞瓜の小ゟ茄子ゟ唐茄子と号して大ゟ出る



○薬研堀と云るハ米沢町二丁目三丁目の地先ゟ五丁入堀ゟ〻ゟ今年
六月ゟ十月迄ゟ埋立其沿町名ゟ成薬研堀埋立地と号ス○七月朔日ゟ
浅草境内にて殖食永谷貞昌院天満宮開帳○七月朔日ゟ四月院にて
大和当麻曼荼羅弥陀如来開帳廿五菩薩来迎会修行あり○八月大風人
家多く倒る也数多切倒て永代橋へ寄り大橋ゟ流る又一艘佃島と
石川島の間へ吹上人船を引て出ス○九月神田明神祭礼延引安永八年より
出る○秋永代寺ゟ築山泉水をこしらへる程ゟ出ス近辺変く出ス
又中ゟ河岸ゟ移る故の築ゟ出ス○本所小梅追焼け実説
本堂も焼ゟ是ゟ地山の形を写し女人を清しめる崇ゟ出る（此説理ゟ）
あるゟ代ゟ弥山を造るハ永代ゟの意中ゟ出る○神田佐柄木町酒店山川十右衛門
近辺の町名のゟ初ゟ知ゟ知ゟ知

好ム所

此年間記事

〈儒家　宇佐美惠助（灌水）　松崎才蔵（観海）　井上文平（金峨）　井上保義（東溪）　井上仲

岡井郡太夫（嶼洲）〈詩文　熊弥八（窪壘）　細井甚三郎（平洲）　宮瀬三右衛門（田明）　須知文平

葛坡山人　千葉義右衛門（芸閣）　三浦吉右衛門（瓶山）　大内忠右衛門（熊耳）〈書家　三井孫右衛門（親和）

澤田文二郎（東江）　松下君嶽（烏石）　屋代太右衛門（師古）　伊藤善蔵（益通）　崑陵山人

小河保寿　細井九皐〈和哥　加茂茂則　荷田春風　蒼生女

稲生魚彦〈物産　田村元雄　平賀鳩溪　後藤梨春〈画家　狩野栄川院

玲水鄰松　吉田素香　佐脇嵩之　三福花信　諸葛監（文静）〈俳諧　夢太　存義　買明　沽山　田社　宝馬　露十〈浮世繪師　勝川春章（門人数多）

一筆、秋文調　磯田湖龍斎　柳文朝　小松孫百　寛水



○三井親和が繁書行れしより親和深く篆字のかきれる形を器物に

る事行る又婦女の衣類表に垂れ下して裏に裏ふ種種を付るもてはやる○細身の

紙屋もの細身刀を用しも　武家なりしが天明より止む　○土平といふ飴賣ある谷中金森稲荷の

境内の茶屋鍵屋のおせん浅草奥山張店木の下楊枝店柳屋のおつぎ

美女の噂ありて書伝の彩画　○曲亭云明和二年の比雇山の彩色摺ふるひ

て板木師金云といふりの板摺某ふるひ板木に見当を付る事を工夫始く

四五遍の彩色摺を製し出せしより程なく和らぎて摺出る事とのりぬと云

蜀山翁云此説非なり高七分の彩色摺は延享元年江戸屋吉右衛門工夫を始とすといふり

文三郎同文吾松下りし比彼の風を見ならひて羽摺の文再出れを好るゞ

強く強く成りぬ○琴曲生田検校行る○富士田掘江萩江嘉友

ホゞ長唄新内弟淨瑠璃行る○二挺鼓行る○朝鮮の弘慶子といふ某

賣市街をゆるく（橙色角袖衣数件の子美の先達りなる歟うべし）○大晦日の夜扇賣の声あり

ものうるしゃ此時代より始まるか止まらず○曳尾菴云明和安永の比嵐除猫

の絵かゝんとて市中を尋ねしに常州の者ありて名を雲友といふ（又蜀山の一話一言に天明寛政の比

白仙といふものの年中あちこち坊主に出羽の秋田より猫の宮あり新のものなりて猫と虎とを

画きて社に一枚づゝ出す猫をといふ自ら猫うりと称して猫と虎と幾画く筆を持て都下を

うれあるき猫をかゝくといひしに入れて画しむれば僅の價を与て画くその猫に嵐を

避しといふ云々とありいろれる先なる 未詳

○平賀鳩渓紅毛のエレキテルを工夫し日本にて製し始む

## 安永元年壬辰　十月廿五日改元

二月初午淺草の西宮稲荷神輿を渡す（体むる）○二月廿八日江戸天火坤より艮

に飛ぶ○二月廿九日乾より西南の風烈しく土烟天を覆ひ日光朦朧たり午の刻

日蝕彩人坂大四ちより出火して永岩町通り白金左町麻布辺一系（若福なる

開山堂

のとる）三田彩画町辺狸穴坂金市広尚町ちぐれ霊南坂一筋に西久保横田





雷ヶ窪虎御門日比谷広つる場先広門横田広つ和田倉広つ常盤橋広門

神田橋御門ホ焼亡右道筋広つ内藤庚蕃邸庚焼る日本橋南ハ通

三ロ町目西側元四日市町茅町西河岸辺より南傾る町中橋を限り上橋

町迄小ハ本町石町辺東西神田町〻武家方左一系小川町入口駿河台

昌平橋筋建橋御門外神田町〻神田社聖堂湯島天神社門前を通

一系上野仁王門山王社下寺不残車坂下谷辺廣小路御徒町三味線坂坂

本入谷金杉鶯横小塚原吉原町子住大橋向掃部宿浅草筋ハ下谷

廣徳寺通彩堀阿部川町を越辺本願寺御蔵草寺（本堂修る）法

院英寺中馬道田町彩を越橋場ハ通る又同日巳二刻本所山田町

より出火して森川宿迄分豹迄白山傾城ヶ窪入口迄うなゐ縄手土物店

千太木入口根津谷中感応寺草坂根岸ハ通る（翌晦日未刻

止る）又翌晦日巳



223781

国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b　ガラス使用

刻小風ふうり或東風ゝ成常盤橋外の火大伝る町辺馬喰町二丁目迄濱町辺堺町葺屋町西産の芝居猿芝居四座小網町大坂町田所町霊岸町住吉町辺伊勢町蔵河町室町迄日本橋中橋京橋ふいゝる東刻双方の火残り北は大西降風残る北火ゆ北六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋の数〻〻焼死怪死人夫数を知らず上野仁王門氏内再度の焼亡之感恐るゝ事堪

○吉原町仮宅今戸橋場山の宿西玉泉川八幡宮佃丁に出る芳町の衝艶郎も仲丁の仮宅に出る

○大火後行人坂大円寺再建至〻その設へある人夫百羅漢の石像を造立せ○霊中菴蓼太横山町ゝ住〻〻〻〻氏火ゆゝ逃れて泉川に行て城要津る中の菴ゝいゝり『緋桜を志ゆゝて青丘柳ゝるゆ』といふ句を吟〻〻〻〻蓼太きゝり〻人ゝ句を点じて百韻をみて〻夜を明せ〻〻〻〻

○三月又日ゝり不忍弁天門ゝて京笑如雲孫ゝ稲荷明神開帳

○同十日より牛の御前王子権現開帳○同十九日芳方天火西より東北へ延ふ○四月八日より小日向大日坂妙見院大日如来開帳○魚盤親世吉開帳○四月より五月迄諸国疫癘行る○四月ゝ谷内薬師宿弥舎



再興御免あり甲州道中人馬往来の示とゝりて繁昌せり○大川中洲新地築立成就ゝ町孫い安永四年ゝ至〻〻〻〻全く成ゝり 実地ハ新天橋より南の方酒井家白須家菅沼家ゝ孫家ゝ通り

川岸九三丁余坪数九千六百七十七坪余茅屋九十三軒ゝ料理屋ゝ〻孫ゝ大度ゝ〻〻〻〻湯孫ハ三軒ゝり生涯の家敷ゝ〻〻〻〻安永四年より天明八年迄十四年のゝ〻ゝの中洲のゝ〻拾ひ西玉橋ゝ後の地ゝ〻〻〻〻林くゝり〻〻が寛政ゝ系元のごとく朱樂英江が編の大抵洗覧と必ゝる美紙ゝ中洲のゝ〻をゝ〻〻〻〻記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒 六十六才名信賢称甚兵衛ゝ中称名院ゝ義沈初代英一蝶晩年の門人ゝ〻始ハ一水と云り嵩谷ゝ〻〻〻〻門人

○八月朝日二日大風西孫ゝ吹潰ゝ〻ゝ妻新焼の小孫吹例ゝ〻ゝ〻〻〻〻

銭氏の困苦ゝ〻〻〻〻○八月廿日儒師村士陵卒 名宗雄称孫左衛門孫迄大四ゝ〻ゝ義ゝ

工大森英昌卒 年八才○八月十七日大風西再度小孫ゝ霞す本石深川出水床上迄ゝ〻大新永代橋ゝ損ゝ○八月廿七日土佐左京少進光芳卒 年ゝ〻

○九月武朱張通用始る○十一月朝日数九時ゝ上野御本坊失火

○此冬物書と以ふ人日蓍里舟繋松ゝ碑を建小海入江貞文ゝ撰ゝ

○再校增補江戸砂子梓行（沾涼ゞ男恒足軒門人冬涉校訂）

安永二年癸巳　二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒（称彩嶺又名文玄伐の二男）○三月廿日より牛島上野獲国院ゴ葬ス

長命寺弁才天開帳○二月より田向院境内一言観音開帳○同月薬師堂開帳○同月金剛開帳○三月十日上野凌雲院失火○四月より洲崎弁才天開帳

○同月より生嶋稲荷神開帳○四月午の日築地小田原町浪除稲荷祭

町々出し絵掛ケ出シ生姿休む○三月末ゴより疫病行ヒ人多く死セ（江戸中ふく）

三月より六月まで凡十九万人疫死ストフ大方中人以下ヲ多リ　御救トシテ朝鮮人参ヲ与フ○四月より和漢の名

上の宮弁才天開帳江戸より来清吉ー○六月醫学館再建法医師より年ニ

寄附張ル○六月十九日儒師坪井青城卒（名敏求　後芝正覚ニ葬ス）○葛西東漸

寺日限記世話開帳（広ク行テ半塗ヨリ伽る）○七月朔日より湯島社地ヨリ摂州

四天王寺聖徳太子開帳（六月廿六日江戸ニ着の時迎の祺多く出る）○冬厳寒川々の氷厚く通船自由

ならざる中ヨリて法物の價甚貴ク成リ一説ニよりて正月門徒の松井高ふるあく

名ふしのふあ玉川も氷閉て通船絶シ一日も有ー由後ニ茂ふいつり

○十二月朔日神田明神社仮殿ヨリて奈礼の式執行（当年奈礼の年ニ当ル　去る災

産子の町々わり物も多ふ加ヘ出ぎる故今日仮殿ヨリて生式のミ行ヒ羅り本社ハ造営いまだ成らず

生後安永六年迄仮殿ヨリて執行ひ月八月亥年九月本殿ヨリ有リ）○安永の始の比綿の実ヲ作り方ハ畑ヨリ蕎麦ヲ食シて死ンとい

る蕎麦ヲ食シて死ンとい

ふ一説ふありてそバ更ふ賣れる

宋紫石六十三才ヨリて孔雀ヲ画ク額ヲ載ンとヨリて徒本ヲ画ヨリ為ー

慥ヨリ又同ヲ中宗恩ヨリ其家の墓碑あれどもふ詳ならず

○墓所一覧ふ画人宋紫石今ハ於り京本形ヲ中徒本ヲ墓

る由記せり絵ヲ嚴島扁額縮木ヨ安永七年戊戌五月

同　三年甲午

正月廿日狩野洞庭身信卒○二月八日より川口善光寺浮沈寺開帳

○三月晋下桂町より出火大風ふて数町焼ケ出ス○三月十四日中村座

千年呂○三月十八日建部涼袋卒（五十六才牛込弘福寺ふ葬ス　画并俳諧ヲ長ク行ヒ寒葉齋と号ス）

○同日より魚藍観世音開帳○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間寺弘法大師中興稲荷田向院にて開帳○同月四日より六月八日迄本所表町本覚寺祖師開帳○同月八日より五月十八日迄本下川茅師如来開帳○永代寺内失六観世音腰巻佛開帳○同月十八日より六月八日迄浅草観世音開帳○西門院浄瑠璃西所にて信濃料郡白毛山康楽寺園光大師御影観音上人木像開帳○二本榎廣岳院にて仙臺住生寺寅牛供養円光大師開帳○六阿弥陀院末木観世音開帳西ゲ原昌林寺○同三番西ゲ原垂量寺観世音開帳○四月十八日より六月八日迄浅草寺内日音院雨宝童子松寿院おふく弁才天復龍像開帳○浅草池の端寺弁才天開帳○五月十六日より寛戸天満宮開扉○六月六日大雷世七ヶ所ふ落る○六月廿六日大風雨家屋を損し樹木を倒す



○小石川伝通院山内福聚院大黒天疫の災より江戸中一構中を結んで甲子の系諸今年より始る○七月朔日より護国寺観如来観世音開帳○同日より小石川大塚大慈寺観世音開帳○七月十五日古華了延卒七十一才○八月十五日市谷八幡宮奏礼神楽を演し出し絲物出る○八月浄瑠璃元祖露賀新内死卒一才○九月朔日より市谷八幡宮内菜の系稲荷開帳○九月医学館講堂成就せ○九月廿日芝土山聖天宮奏礼神楽を演し産子の町より出し絲物を出す後休む○九月廿一日小石川白山権現奏礼神楽を演し産子町より出し練物を出す○九月深川猪殺座止○大川橋始て掛る俗ふ吾妻橋と称ふ十月十七日渡り始め○十月廿二日儒師鵜孟一卒称左勝保子長憲る葬式○画人島山石燕豊房名山彦と称る今年二巻をけつ出せしフキボカシの彩色摺を工夫せしより此年を始とする世安乃貞義の話之石燕ハ国信の門人より板刻の画本多

○この時代橋の珉江とゆる給師ゆゑ繼宿師ありしゆ榕迎の彩色をエ
夫し職人部数とゆる給事をゆゝそ〳〵ゆゑ外作潛の点式みど製〳〵ゆ
〳〵やゞて廢れゆ○投扇の戯ゆまゝ線是を弄ゞゆ

安永四年乙未　十一月閏

三月十七日より回向院まゝ京清水田養院景清守本尊千手観世音毘沙門天
勝軍地蔵ゆ開帳○同廿九日より浅谷長谷寺まゝ京音羽山清水寺
奥院千手観世音毘沙門天地蔵ゆ開帳○大井来福寺櫻樹を栽繼〳〵
二十八部尻
○四月朔日より神田上水源大盛寺井頭弁才天開帳○浅草戸明神
八幡宮開帳○四月芝切通し時の鐘再鳴○鬼戸聖廟ゆ樓門
建屋上ゆ四神ゆ○大川中洲築立地に家居建續町名を三股富永町と号
〳〵川辺ゆ葦簀囲ひの茶店そうけ芝べ夏月納涼殊ゆ繁く往来畫

夜ゆ喧〳〵

六如菴詩鈔　中津泛舟

繁華休説湧金門行樂此中難具論烟暖四時花世界月清萬頃
水乾坤壂楊岸岸樓臺出遊舫人人歌笑喧輸却枕列緣底事恨
無蘇白闕詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天闌暑収趁涼輕舸向中洲燈棚夾岸花相耿蟀蝀臥波
橋欲浮鳳管數聲風嫋嫋星河一帶水悠悠銀罌倒盡人難醉白
紵携帰滿袂秋

中津漫興

十里清湖鏡裡天繁華惱客動留連鴛鴦沙外芙蓉雨楊柳橋頭
翡翠烟秖見黄金弟買笑誰知白髮暗催年笙歌眼底鎮長滿自
是來舟非去船

○四月より目黒明王院まゝて臨金松本寺親世音同岩殿寺親世音同
宝戒寺親世音臨金女池蕾の内一番地蔵并開帳○七月より回向院ゆ
〳〵伊豆三島出口富士山本地仏弥陀如来開帳○七月より回向院ゆ
て初穂和様塔峯阿弥陀寺弥勒上人本地法國光明佛開帳

○七月より市谷柳町なる徳院親世寺開帳○八月十三日より晦日まで深川八幡宮開帳○同廿二日より護國寺山内にて稜父三十ヒ番観世音不動開帳○八月芋場町業平橋内にて萩野法界寺朝日如来開帳○九月朔日より音羽町九丁目田中八幡宮開帳○同日より世日上駄田町世継稲荷天満宮開帳○九月十九日より牛込赤城明神開帳○投壺の技行る（ちらと見えたる大内熊耳の門人田江南といふる人投壺の礼を研尋し古法を作り投壺指揮投壺矢勢図解ホ梓行せり）○紀伊国孟文九来つて山ゲ実る文右衛門築地阪田町に住し絶て著しるゲ能潜を好み亀山と号し後蘿蔔しく明西といふ今年六十餘才ホふく浮る（紀文が子孫是まで絶ず）○十二月廿二日儒師松崎観海卒（名維時称才蔵麻布に住ホ著）○薩摩より来りし鼈猪（ヤマアラシ）といふ獣神田付近町田村元雄の家に立しゲ後浅草境内にて見世物とし猪の大サ牛の骨数百本ありゲ怒る時ハ此骨逆立て恐ろしき箭を放

安永五年丙申

正月五日儒師村士一秋卒（名宗章号玉水称行義四十分弱迄大四なるホ著ハ）○正月廿八日より柳窓法性寺妙見宮開帳○二月風邪流行○三月末より秋の頃まで麻疹流行人多く死す○三月廿六日物産家田村元雄卒（名元臺浅草茅場町に住ホ著）○四月廿八日詩人大内熊耳卒（八十才名承祭称忠右衛門下谷廣徳寺ホ葬ハ男を業家といふ）○五月六日より八月八日迄田向院にて伊勢白子観音の子安観世寺開帳○五月朔日より矢口新田の祢寺地十一面観世寺開帳○同日より永代なる花来八幡宮開帳○七月朔日より永代なる萩来八幡宮開帳○七月廿九日萩生道俊卒（七十ヒ才号金谷俗称の男なり）○八月九日儒師宇佐美灌水卒（名惠字子迪称惠助四谷車町に住ホ著ハ）○柳樽若丹盆と云狂歌の妻一産ホ三女を生ハ名を梅松さくといふさくい樽の縁語なりといふも是ハ小ふくホ俗りて御所ふくと云るとなり）○品川の辺にて石地蔵経を賣むと声呼ばるるに皆人皆ホ行しゲ地義なるの

為覆を放しそつるゝ後の方より蜂の巣ありて多くの蜂の声讀經の様よりも
元〜〜と聚居ふ出 ○九月十三日東叡山彌陀殿并諸堂所修復新始
○十一月廿七日書家伊藤益道卒 名子彩 称名義 坂本善兵衛ふ葬ル ○十二月十日夜二更のころ
新座敷東明寺吹上親世寺堂焼亡 本堂大中ふ埋れ ○十二月廿三日儒師
伊東勘海卒 名晃 浅草 万隆寺ふ葬ル

安永六年丁酉

正月廿一日暁青山御屋大工町焼 ○浅草報恩寺親鸞上人持物の什宝を
洋々む ○三月廿日より六月朔日まて浅草寺境内并仏熱開
帳あり開基より千百卒年ゝ為ふと云 仏人寺町百庵の著記ふいふ浅草寺境内の
開帳ありしを拝ハ此ハ中谷と云今ハ中田といふ 境内ふ山号ハ阿先生住ゆゑ焼石
石橋あり見ひのうゝしみち今ハあら田の里とゝ称きけ 百庵

世話さ残いかゝ仏のともいち拾おりゝ名ゝ名ゝの里 明所の
○三月廿五日より湯島天満宮并社建立成就ゆ開帳 ○三月同白新長
谷寺境内観世寺開帳 ○浅草唯念寺称念寺淵辺證泉寺ゆゑ七日ゝ
下野高田天拜一光三尊佛開帳 ○四月朔日より田白院開山獲念仏僧中
千鉢佛 恵心作 阿弥陀如来境内菓茗荷丈天一言親世寺開帳 ○同日より青山
善光寺一光三尊弥陀仏開帳 ○浅谷長谷寺二丈六尺観世寺優義の像を
外古佛霊宝開帳 ○四月より下谷寺町蓮城寺祖師 日親上人 開帳 ○橋場
不動院ふ動尊 長兵作 開帳 ○四月八日より亀戸社内花園明神開帳 ○中野法
仙寺ふ動尊開帳 ○芝金杉正伝寺ふゆゑ牛迎寺町久成寺祖師開帳
○下谷五条天神天満宮開帳 ○巻岩山田伯寺ゆゑ出羽湯殿山黄金堂玄良
坊作久間如来開帳 ○麹町平河天神内ゆゑ小浦淡島明神虚空蔵

弁天開帳○六月より本所丸山奥谷寺祖師開帳○六月十一日儒師稲垣長章卒号白水
林義方後白山妙法寺ニ葬ル　夏より伊豆大島焼始め南海に火燃出る所川沖まで夜く火光天く
映ずるなり○八月十五日ノ田白院より江戸栗津義仲寺に木曽義仲松尾芭蕉
を移す日弥陀如来芭蕉翁像開帳○八月廿五日書家高山小溟卒名尚賢称平助
浅草松葉町に葬ル
○此秋魚猟あり和田小田原の海中に大魚来る長さ十丈横八九丈脊中に蛎
の類生ずる名をノウガサメといふ多く大船をも覆ふ漁人
恐れて海に出ざるなり○十月日光不動尊用ゆる武蔵国麻布谷保天
神開帳別当安楽寺○十月甲斐身延山七面宮より出火京諸の看経衆人名々
経たりとも如何ぞ延ぶる者多く九死一生の辨まで明所せしもおそ
安永七年戊戌　七月開
二月朔日より浅草寺法華会ありく佐渡国塚原振本寺祖師開帳○二月十二日



俄に大風起り本石町より出火霊巌島深川迄延焼○小伯耆郡子代の
稲荷神霊験多出て拝せむ○浅野家の義士極楽安養院の後
家孫組七の孫一計を案せざる内支切後七十六歳の時なり　薙髪して
うしの老後泉岳寺の門前に住して妙海と号し麻布村の庵室に居
年二月廿五日九十才にて終れり○三月三日儒師南宮大湫卒名岳称源六
牛島弘福寺に葬ル○三月廿日より横町平川天満宮開帳○烏森稲荷の祠事日
の祠別当快長院開帳○三月上野清水堂観世音本堂造立の分開帳
○三田寺日の祠開帳○和漢奥行の日牧昔八時天八日成しが今年三月廿八
日より深川八幡宮境内おいてく奥行ひろしより十日成し由我辰之
月より○四月朔日より牛込田福寺に東本満寺祖師開帳
○月日より護国寺に甲斐大聖院不動尊狩屋三郎作武田信玄像開帳

○六月朔日より御祭礼八幡宮より後及富士裾野より我八幡宮の
像（荒人神）玉殿明神（虎ヶ谷）開帳○同日より御祭礼中央なる大日如来開帳
○同日より同七月十七日迄回向院にて信州善光寺弥陀如来開帳（代詣開帳数四）
して法人翠を分て暁七時より輝の先に挑灯を多くとり連れて唱声小念仏を唱へ来れるの名
し平賀橋渡鳥亭馬場が求めよりて立出でしに少き馬牛の脊に六字の名号をかきたし見
せるの面白しとて利を得ようとの工夫総江源二郎右衛門平といふの細工なる振ごま実に
見事なりしかぬ物を見て仏法ありがたく思ひ出るといふものあるべし
○六月朔日より御祭礼南部大仏勧進所出世大黒天開帳
○六月十六日俳人小栗百万卒（西本願寺の門徒なる中光徳寺の義人）○六月廿六日より高田某師門下
にて武蔵十条村某光寺正親世寺光智法印像開帳○高輪如来寺にて
常陸國麻島郡子生神宮寺大天寺帳○七月朔日より芝愛宕
社地にて千住勝専寺蓮大明神開帳○牛込七軒町多門院に身毘沙
門天寺帳○三田寺町薬師寺引正親世寺（中乃坊蓮来寺織田信長）開帳



○七月朔日より湯島社地にて武州埼玉郡野爲地蔵寺開帳（浄山寺）
○七月四日書家山本葉海卒（名知光称右衛門本所法恩寺葬）○七月八日小割下水花巖
寺某院如来寺帳○七月十六日より浅草清水寺千手観世寺本堂建立成
就ふ分開帳○七月浅草寺中寿命院妙見宮本堂建立入仏ふ分開帳
○七月廿八日より浅草寺中初光院にて信州善光寺越村住生寺蓮
感得弥陀如来（聖徳太子作とも）釈迦涅槃図親子地蔵寺帳○下落合村某王
院釈迦如来開帳○八月廿五日麻布天沼宮祭礼仲乗り列古例の如く又
産子町々にて絵物出て振ひ大方なりし（千歳中絶）
○七月廿八日儒師鹿島探春卒（名右衛門房号東郭世世文保天徳寺葬）
安永八年己亥
正月十四日夜青山熊野権現別當浄住院自火○二月板倉佳現境内

ゆゑ〻所に旅所を寄地観世音開帳○川崎平間寺厄除弘法大師本
堂修復成就ふ有開帳○（其土山聖天宮西の藥ふ所の池あり池中より石仏出ぬ
と号し文政天ふの老婆の立像あり見童石を投ぜし祟
ふ授延命といひ伝へ一名ふ一年六月ふ曝り池も埋まり石像も土中ふ埋れ四十年来知る人なし
今年の夫ふ絶ふ八日市場の百姓平山忠左衛門とのあるの江戸ふ来り八所を借りて酒楼
を営み池を掘改めこの石像ふ拾ひ出しとそ語く前を掘りしを山上ふ移して今ふ至
るとそこの時の石像を掘出しとそ語く前を掘りしを山上ふ移して今ふ至
るとそ葉衣婆の像なり○四月朔日二日大ふ寒し三日大雷雨○四月八日より
浅草本法寺ふ新曾妙顕寺祖師釈迦如来開帳○同日より回向院
ふて伊勢朝熊岳金剛院ふ虚空蔵菩薩開帳○押上最教寺蒙
古退治羅漢曼荼羅を拝せしむ○下谷徒士ふ摩利支天開帳
○四月八日より浅草榧寺（四天寺）住ふ熊野本地阿弥陀如来（岡山観智国師
携来ふ）開帳
○四月より七月迄百日の間和州江の島本宮岩屋弁天開帳（江戸今宮稲荷）
○同月ふ勅願所信濃水内郡石堂村黄雲寂照房作地蔵井（別当
開帳

○宕山内ふて浅草山虚空蔵井岳中院恩祥堂地蔵井開帳（別当延命寺
○五月十日より廿九日迄船蔵ふ勧進ふとて南新東ふて二月堂観世音井蔵帳
○六月朔日より芽柳町某師所ふて武州下新座村東明寺内上観世音開帳
○湯島天神社地ふて多摩郡谷古田領新里徳性寺某師如来ふ勧請ふ
帳○八月より深川八幡宮本地愛染明王開帳○小石川安量院ふ小野
の小町の墓とて立和州より移しし由ふ今年小町の九百年忌ふ当り八月八日ふ
法ふの修行ふ（小町の祥忌八月某の日ふ行ふ）○八月廿日大風雨洪水和泉橋蔵月向下水
道樋掃の業ふ当る（小日向水道下辺往来水上流ふ）○薩摩侯品川の前邸（琉球屋敷の
年ふ始て樋ふる法人ふ命を珍賞す（世ふ是宋年と称ス）○九月二日俳人梅鄰菴五建辛
（辛ふ六ふ小石川一名ふ業ス）○九月より十二月迄小田町より出火ふ当り町〻ふ焼るもの多く
壊ち出ふの地ふて埋ふる○九月十五日半御所ふ新嘗祭神楽を演ず老子

町こうり出て移り物を出すなどを張中絶せり○去年暑より伊豆大
島焼出夜毎西南の方鳴して江戸迄も響渡れり○十月朝日夜より
二日迄炎雲の如く降る大隅国桜島焼こうしゅう生灰江戸迄降しと
い〻○十月廿三日佛人蘭亦左蘭卒 年七十七上の山下 答運ちゆ蘭人 ○葛西柴又村鄙俗
九世月 設の所 今年堂宇を修理せしゆ本堂の様上より今の帝新天の板本
なるを移されをなる 昔為ゆ 大ひし本堂この日寅由ゆ出う
しかられより 庚申の日を縁日として諸人参詣
○今年 元日 ふ祥 書家烏石葛辰京都ゆ於て卒 八十七字君岳号白鹿洞
廣海の門人なり
○十二月十八日平賀鳩溪卒 名国倫 称源内号風来山人樗協総泉ゆ蘭
一説ゆ安永九子年二月とも云

## 安永九年庚子

正月八日書家後山叡蘇卒 名秀盈後山流の祖 ○二月十五日書家山本昌
信卒 称菊治 三国 称ゆ蘭 ○三月行基并千七十年供養ゆ阿弥陀堂ゆ於て開
帳世寺



田向○二月朝日より浅草社地より上野世良田感徳山地蔵尊十一面
観世寺開帳○麻布宮殿の冠纓聖徳太子開帳祝寿上人等八字居
号を洋せむ○千駄ヶ谷八幡宮神功皇后寄日ゆ神開帳○三月朝日ゆ
市谷御所光徳院子を観世寺開帳○同日より池の坊寄る祖師寄帳
○三月十五日より青山善光寺より摂津難波堀江一光三尊佛開帳 和光寺
○三月十六日永代寺より葛飾郡吉川延命寺地蔵尊開帳○四月朝日より
田向院より同寺ゆ於て河原絶ゆ来ゆ於て大仏西芝新開帳○四月朝日ゆ浅
草西福寺無量寿仏 観世寺 開帳○四月朝日より極楽水光寺より元木某師
開帳○四月十五日より絶有村祥雲寺聖観世寺并深川寺町寺巡ゆ
開帳○同日不動尊開帳○浅草天王橋西の橋始く掛る○四月十六日より
羅漢寺三所堂建立八月の比成就 牧父坂東 田国の字 而観世寺安置供養あり 各俗善信

○四月房州南浦異國船漂着南京船居住八名七十八人雲といふ

○五月高田宝象寺石を積て富士山を築今月成就す○或書ニ六月

閏運星おるとあり○六月十七日書家篠田定考卒 号明浦 九山年七十五

○六月廿四日儒師松宮観山卒 名俊仍 称主玲 大隅光源院ニ

葬ル生物吳祥と号ス

廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川洪水村〻人家を流し永代橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴し○七月朔日より田白

院を丹後天橋立成れる雲龍世に名を射る九月代地花菖蒲○九月十

五日儒師林東溟卒 名義卿 半蔵 弘道 称大学ル○十月十五日山岡明阿若宗彭卒 名俊明 称大学

○武蔵志料写本成 明阿著の著輯 此年今年正月

辞世 百〻世の後も伝のうつゝ人の言の葉ぞ世に残る

移成し世文中ふれ〻ども江戸の名所数事人物ハ各部ニ分られ詩俱〻金箔の物といふ文政又義

聘ゲ作の紫一本の後編ともあらんされし紫の色うつろ彩せしあり写本ハ世ニ稀なり

此年間紀事



堀の内妙法寺祖師遠日忌諸人群集ス○安永路の辻子弱地谷中辺西ハ

写真世ニ多れ不思ヲ定む○江戸ハ二十五箇所四光大師巡拝所を定む 是編 某年

記ス 詳之○安永十年俳人提亭化猿なる種おゐと云句集ハ載ル不の字時代の名り物商物

同録左ハ畧記ス

〈菓子屋 下谷廣小路金沢 中町鈴木越後 月見岡 本町 ちくや 泉町 ちくや 駿田町 壺屋

駿 浅草並木 下谷車坂

〈軽焼 松谷 茗荷谷

〈蕎麦切 浅草乃好庵 堀町福山牛蒡ハ雑司ヶ谷蕨の間

〈新切 麹町

〈揚枝茶筌五倍子酒中花 浅草 吉原 柳橋 宝井

〈料理茶屋 深川井筒 日 浅草 吉原

〈田楽 芝 甲子屋

〈鮨 日暮 雑司ヶ谷 川口屋

〈ちくわ〉 秋田佐竹ハ 大橋 新地

〈土産 貴賤 長崎 菊西太 郎 須磨 大師 孫七郎

〈鼓の焼 松 助 勝

〈隅田川諸白 並木 山屋

〈麩 芝 伊四郎

〈所所おこし 玉屋

〈鮒 中村

〈蕎麦切豆腐 木挽 丁

〈おゝ雪ゝ茶 田向 人形 車坂下 鶴や

〈黄候 こう 堂町 義 吉平 きぬ

〈浅草候 浅草 堀内

〈いくよ餅 ゑ玉 此外 ひ ま ま なり

来る花ちの名不知の名所なも記せり○わ撲取谷風梶之助小野川喜

再按るに此説は第八文政四年十月終れり小石川慈照院に葬る

三郎釈迦嶽雲右衛門に行る 安永の比い大うこ浜川永代あり 又て勧進角力興行あり ○狂哥師 平秩東作 蜀山人 手柄岡持 唐衣橘洲 ○軍談師 馬谷 芳一 祐石 井魯石 行る ○浮世絵師 石居清長 彩色物 鈴木実信の比より 絵巧に成 吉左堂 実潮 ○能人 松廼菴 醉四時 游観録 意川 真町 金福寺 哥川豊春 一竜斎 あり ○能人 松廼菴 醉四時 游観録 といふ面白きもの江戸花暦 見に出る ○浅草 境内石地蔵 因果地蔵 といふ 流行 後奥山三途川 焼像 行列の若多し ○芝 先稲荷 境内茶店の婆 油揚 を拵 おいぬ と唱の時 狐出て食ふ 皆人 是を見る ○婦女の 賛さ 始る ○裸人形 腰折れ といふ の造り始む

○小石川 伝通院 大造 元禄 如 ○ 浅草門 表町 前 浅草 辰巳 盛 芝居 の田楽 茅場 の 居 を出 て 行 ち こ の 勢 を 陪 生 賀 強 に を ふ せ 弱 き を 助 ま 頗 る 侠 年 の り の 行 し ら 若 年 よ 里 祇 園 ま ち の 出 仮 を し て 乃 化 踊 を 今 ～ 山 王 祇 田 の ど 里 の 祭 礼 に も 出 て 踊 る 或 い 女 の 加 ふ と ら ち ふ 小 系 女 と の り 巫 安 の 出 れ を ま て と ど う 或 ハ 諸 産 蕃 中 の 結 き の 為 ふ 縁 て 出 れ る 也 と 今 流 ハ ゆ い れ と も う ば ば 文 化 の 末 の 比 祇 田 祭 礼 の 時 七 年 後 才 ふ く 出 ～ の 上 ふ 色 う て 踊 う ～ と お の れ も 看 う ち 比 七 十 余 年 ふ ～ く 終 り 南 畝 先生 文化 元 甲子 秋 出 侍 へ 越 れ ～ 時 高 船 の 清 人 程 赤 城 に あ





ま ち ぶ か の 石 已 盛 の 為 と 凡 を 二 ッ ふ 割 ら 如 く 面 白 結 似 ら ～ と ら ～ ふ れ ～ と そ 石 已 盛 ら 画 像 ふ 南 畝 先生 の 賛 あ り ま ま り と 祇 楽 の 者 り 石 已 盛 ら か れ ふ 娘 や 花 さ せ 翁

○安永中 鳥山検校遊里ふ趣遊 女 澱川 と 身 受 ～ 巨万 の 金 銀 を 費 せ り 此 検校 法 人 ふ 金 銀 を 貸 て そ る 利 に 貪 り け る 西 瓜 つ ひ ふ 聚 斂 ふ 受 せ ら れ ～ と ぜ り ○山王 神田 祭 礼 の 時 花 万 度 と ら ぶ ぎ 出 る 万 銭 出 ら れ ～ ら 北 東 を 添 て 東 万 度 と 号 ス ○安永中 越後 の 者 な そ 安 世 と い つ る 大 女 の 力 抜 ふ ら ち 翁 ふ 歩 ら

天明元年 辛丑 四月十三日改元 五月閏

正月八日 彩 浅草 木町 和國餅 の 店 より 出 火 あ り 芝 居 そ の 外 数 横 霊 叢 寺 ふ 焼る ○二月 朔日 より 浅 草 妙 音 寺 そ 孫 会 名 越 谷 長 勝 寺 祖 師 開 帳 ○二月 彩 日 浄 瑠 璃 語 元 祖 常 磐 津 文 字 太 夫 死 廣 尾 祥 雲 寺 ふ 葬 ス ○二月 十五 日 より 田 向 陸 奥 ち 出 ～ 絵 小 金 芳 化 宗 一 月 寺 釈 迦 如 来 不 動 尊 の 開 帳 足 八 寸 三 尊 あ り 喜 国 寺 る 祇 ○三月 十三 日 ち 多 田 ち ～ 内 ち そ 信 州 善 光 寺 田 ふ 如 来 御 帳 文 殿 少 ～ 代 ○ 日 十 日 ち 十 八 日 ち 沼 田 延 命 寺 そ 拝 ○三月 十八 日 浅 草 三 社 権 現 祭 礼 ス ～ ～ 絵 ら ～ ら 今 年 祇 雲 寺 永 盛 ふ の



国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b　ガラス使用

町々が出」絵馬を出す 中略 ○四月八日より回向院にて山城嵯峨二尊院弥陀釈迦
尊像大師開帳○浅草寺法華堂にて下総国平賀村祖師開帳○芽場所
某師内ゆゑ和泉大峯天の河弁才天開帳○古川某師製 招士絵院釈迦 開帳
○鮫ヶ橋某氏にて甲斐国郡内小菱村西方寺十一面観世音開帳
○同日不動尊境内にて武蔵国社住吉和泉三神開帳 構浩大宮司
○六月五日浅草寺六天祭礼神輿出し絵物出る○六月十四日儒師井上某
絵馬 名速 称歌右衛門 白山姫 浅草小菱 ○六月十八日四谷天王稲荷祭礼神輿を渡し出し絵物
出る○秋葉某洪水江戸橋に横ル○七月彩日より回向院にて奥州外濱百観
音岩本山三社寺坊弥陀如来観世音并某師如来開帳○同日より浅草玉
泉寺にて武州八王子寺宝祖師開帳○四谷寺町某成就塩踏観
世音開帳○東叡山護国院常念仏堂五万日回向○下谷徳大寺中



山法花経寺祖師開帳○七月彩日より湯島社地にて小野社回向安堂天
満宮開帳○八月より浅草寺荒沢不動尊開帳○九月晦日不刻吉原伏
見町 一名江戸千二百日とあり より出火一町の除焼る此夜小船宅寺○十月十三日日蓮
上人五百年忌法花宗寺院法延を設く○十月十四日目黒泉院開
基徳川律師寂 諱普寂号乃光 七十五歳 ○十月廿日迄浅草寺観世音
開帳○隅田川西岸一覧二巻板行成 軸物を刊行する多く生彩少し 崔岡蓮水の著
下谷金杯水往来 此書を保ちて 文政の末ゆゑ尚存在せり ○ちりぬるを浅草絵住院の寺中逆光庵にて蓮義を製 始るが新たに
賞て日々繁華集 さまざま貨食舗の如しなれども 伝られず
天明二年壬寅
三月十日より永代寺にて鳥八幡宮本地薬師如来彩色絵 観世音
開帳 此時境内に出し 巫女のおすてとかいふ 巫女の笑をあらそひきそこにも出る ○三月七日二井親和卒 八十二才号竜湖絵絵三宗 書画絵術の達人なりしとぞ
浅川町丁 傍林寺葬 ○三月十日より浅草寺念仏堂にて英蓮谷汲華厳寺十一面観世音

開帳○同日より田向院にて奥州金花山弁才天開帳○芝金杉二伝寺にて中山
勘解院鬼子母神開帳○茅場町茅師内にて小澤薬師の神像開帳○三月廿二日
金彫工尾張直政卒 林氏なり ○三月廿九日儒師庁山兼山卒 名世璠林冬巷
ふ葬 ○四月三日儒師後藤芝山卒 六十才林弥次郎 名世弘
ふ 一説に雑色人廣澤の男之 ○六月三日戯作若伊豆可矣卒 比谷理性寺に
葬ふ 林氏なり ○六月天文
五年牛込菜店より浅草に移る 牛込の西の方神田佐久間町の小名なり
○七月朔日より田向院
にて武州比企郡三保谷村養林院子孫世話 弘法大師作乃灌頂本尊 開帳
○七月十四日夜九時十音打大地震強人戸外に出るこの頃少しの地震は算なし
此節は大山の辺上の外つよく屋上より石を落し
山なれば忍ろ〳〵ふ田舎にて家屋とそ ○七月十音より下谷正法院内にて
上及鈴林光明寺 延享元年利根川より出現若光寺明神之 阿弥陀如来開帳○十月廿日俳人宝物庵
義卒 号竹世居浅草 ふ葬 ○十一月廿九日俳人谷口樓川卒 本所ふ葬 ○今年ふ獲ふる



尚之切印ふ元西国廿三所写観音堂建立 江戸中勧化を募りて堂を営む文政ほろ破壊ふ及ひて今い行ふ〳〵 惜むべし

天明三年癸卯

正月廿六日浅草の狂歌師芝蓉花江戸ふ卒 卒の年浅草云浅草西福寺ふ葬 ○二月二日俳人
二世沾涼卒 八十五才浅草上寺中昌泉院ふ葬 ○二月二日大地震○二月より吾妻森吾妻権
現開帳○二月廿日より江戸湯門院正親世音開帳
○二月廿八日俳人皐月平砂卒 三田高林寺ふ葬 ○三月十四日より下谷正法
院稲荷并本地十一面観世音開帳○同十五日より浅草新寺歯吹弥陀
如来開帳○三月十音より田向院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮法林
坊本地観世音開帳○青山善光寺弥陀如来開帳○浅草穀屋寺親鸞
聖上人遺物を拝せしむ○三月十八日より六月八日迄浅草寺観世音開
帳 寛延元年より三年目之記中天佛ふ移開帳 ○同日より弱形雲ふて下総国
本堂仁王門破損修復あり

東三井寺地蔵菩薩開帳○三月より浅草寺法華会あり駿河岩本実相寺
祖師御開帳○三月廿三日南品川大火○同廿五日霊巌島火事○四月
八日深川辺大火○同十日浅草寺つゝぢ出火○四月朔日より湯島四海
寺十一面観世音五大尊開帳○同日より浅草日輪寺柳稲荷本地十一面観
世音開帳○同日より浅草日輪寺あゝ奥州金洗沢西光寺日限地蔵尊
開帳○同日より下谷五條天神天満宮開帳○四月八日より芝愛宕権現
境内まゝ下総国米倉山弘法寺十一面観世音開帳○六月十日より
湯島社内あゝ小日向若林谷地蔵尊開帳○高田森稲荷あゝ稲荷○六月十六日より大雨降續十七日別て
大雨ふり隅田川辺出水大川橋柳橋潰る小日向大洗堰石垣崩
芝神田上水切る○信州浅間山火坑大ふ焼江戸あゝ七月六日夕七ツ



時より雨ふり雷鳴動し翌七日朝雨し天間く夜の如く六日の
夜より冥土筋毛戻を降らせ駿し井木枝積雪の如し八日ふる
星快晴と成る
浅間山焼出せしは去る廿日より絶へず常ふ焼しるゞ別て強く焼出せしは六月廿九日の夜ふけて
望月宿の辺より見るふ烟立雲の如く空一面ふ震ひ炎い稲光の様ふ見えて恐しかりしが
七月朔日より毎日雷の如く山鳴り沢井ふ強く六日夕方より青色の灰降歌中より翌七
日の朝大ふ雷鳴る高崎く昼迄あゝり横目廿分より降伝迄の軽石の如き小石降り夜ふ当
用ふあれい来候をいくつもくゝて拾ふ二ツ計りなれど変陸ふくゝ見候が
又降ふの夕ふ空大の玉落より暫らく降りて小石降る高崎く戸障子たゝき表窓ふあ
たる雷強くなり安中は三日ヶ和一面の空一面ひくく殊外焼て敢ち太鼓を打て雷除を為ス八日
朝に成て高崎歌の如く夫より少し晴候来も見えず辺ふて戸八九寸位積る寄辺は一尺位ふす
冨岡辺は沢吉井辺あゝ一坪の不量りしふ石あり海苔を拾ふ地ひ大石後砂も多し松井田ふ
て三尺人計り軽井沢碓氷峠迄ふ板鼻の辺は二尺人家ゝ潰し方ふ人馬ひくしふ
家ゝ捨て逃さ遠くのがれて命を全ふせり小田井大笹の辺い強く強く出て人家ゝ潰る
獅師殊外強く迄迄く七日夕我妻辺の山より大蛇も出るり又九日巳の時利根川の上吾妻川の
なりふ水ふしふ水ふしふ水ふしるが皆時泥ふ山の如く押来て人家ゝ流る中沢八丁ふの岸の辺り人樹木家
屋人馬の死骸流れ来る高崎ふ黙りく中外の川く焼石お込水い熱湯の如く上州一国の民ふ二三日昼
夜途方ふ暮れ信州より上州熊谷辺迄遠を遠あれ共五年の内他物ふ代の難ふあれて

死せるもの凡二万五千餘人といふ小田井宿の餘命の輩みな一西風強くして逃げ帰り一火星しきりに迫り
り昔天治元年七月あまたくのかきりなりしに由中古紀あるごとくなり又元禄十六年十二月あも
桜山焼へれども此年の如くあのかくさしまや
江戸市中も硫黄の香こめる川水中川より分流一通り保土の海辺を焦く濁る依て芝浦築
地浜焼御の辺あるに今あも津波起るとて大騒動し個箇の男女まで殆ら尺雑具を運び
さく陸地小屋をかまへ九二日あり
○此頃綿麻價貴し○夏より秋迄霧白冷気ふして帷子を着る日少し
大きく裕衣綿入を
着る日多かりし○七月十日より蒼色岩地内あて本所五間自性院延命地義経
義光大師像等拝○七月晦日古草八代了泉卒○葛西半田稲荷の社修復勧化
御免あて江戸中の紙商へ施財を募る○関東奥川筋飢饉○八月十五日夜の
刻月蝕　夜の暮もれあて
○九月十一日書家小河保秀卒　七年才号中嶺又鶴巣
主人祥楽坂若宮八幡
義
○九月十五日祥田明神祭礼の時神主那和より神輿を十番と十一番の号
一説に二十六番の走後しろの還輿深夜ふ○同日より竜戸姫
及びろ衣今年よりかくの如くふ成る
義山権現屋敷○十月廿八日暁八時小伯耆町辺より大火大風ふして



大伯耆町通旅籠町田所町若宮川町恵比寿町小網町辺堀町葺屋
町通本船町小田原町家町浅草御蔵外数町焼亡同日午刻鎮
○十一月書家松山天蛇卒　名敬和称源蔵
弱冠新形るふ義
○十二月廿日己の刻迄濃茶色の越より
出火本所横綱一花火豊川通御船蔵通り深川六号恵比寿堂霊巌寺
浄心寺猪の恵迄焼る○十二月廿二日巳六半時浅草時上寺方出火焼失
○秋の南力冬ふ延て寒中ふ無彩色今年より始る

天明四年甲辰　正月閏

正月二日夜青山麻布辺大火同夜四谷新宿焼亡○舊冬廿七日夜より正月
三日迄よりて彗星坤の方ふ現る○閏正月廿三日暁八半時神田紺屋町二丁目
より出火鍋町西横町由蔵町竪大工町新石町一丁目塗師町焼亡
○二月初午烏森稲荷祭出し練物出る○二月より四月廿一日迄中の々

如意輪寺聖徳太子開帳○二月小川町三條稲荷明神開帳○三月十五日
より五日迄田町院多くお所関東最寄る道了権現開帳○葛西花又
村正覚寺勢大明神開帳○三月廿一日弘法大師九百五十年忌○川崎平間
寺弘法大師開帳○護国寺護持院弘法大師遠忌に付物開帳
○永代寺山城守治平寺院縣社牛込如意輪観世音開帳○牛込赤城
明神中山法花経寺本堂祖師日法上人開帳○浅草寺法華堂佐渡雑太
郡小濱村妙宣寺祖師開帳○麻布天満宮開帳○四月より子育谷鬼子
母神開帳仏壽院四月より深川霊雲院光明寺泉涌寺釈迦如来肉身
仏舎利開帳○四月十六日茶人清水玄昌卒谷童泉寺○四月十六日夜下刻
吉原水道尻より出火廓中焼亡仮宅向島田町院等浅草並木猫町あり○四月廿七日高
英蓉卒卒二月墓刻の上あり　宗旨町専修院法華寺○諸国飢饉疫病人多死

○五月二日萩原宗固卒八十二才名員辰百花園と号八代光隆の儒士なり烏丸光栄公の門人歌を和寿とよる狂歌に谷蔦木横町に居して卒せり
墓本性寺○六月音古実者伊勢貞丈卒七十才号安斎
上金銭卒卒二月名祝の紙文卒　貞丈の孫なる故墓あり○六月十六日儒師井
芝青松寺墓あり
○九月十五日より十月十七日迄千住慈願寺野馬淨心寺地蔵尊開帳
○九月十八日後桜氏十三代延宗卒卒○十一月より五年の男仙蓬庵前議を嫡
らる○十一月桐長桐芝居稽古を致し財馬橋と云狂言を出す　乙羅物衣大口の衣裳なる出数一枝なる吳服屋舞しあり
老者の女房の
迷風なりしと
○十一月東本願寺本堂再建棟上○十二月六日夜太白星歳
星を犯す○十月十一日月五車星を犯す○十二月廿六日夜戌下刻八代洲川
寄より出火為小風烈しく大名小路彩樹教寺屋敷より町伊勢丁辺八官町
の辺尾張町より本橋町芝居仙蓬庵前の辺北い京橋辺迄焼例築
地海手西本願寺南小田原町辺迄焼翌廿七日申刻深助町辺迄焼る

大小名藩邸所在ものゝ追追焼亡し○十二月廿五日儒師井手柔卒
号信成　法名文孝と称する由葬

天明五年乙巳

二月十五日より田向院にて諸舎利名号開帳○同日より田向院にて豆州
八丈島為朝明神年忌地蔵并開帳○三月より洲崎弁才天開帳○同八日より
江戸城下の宮参り開帳江戸より京坂参り○浅草妙音堂二の江ノ島
寺祖師開帳○三月廿六日儒師清田君錦卒　山平七大号孔雀楼　○三月十八日福王雲峯卒　法名雲峯
義右衛門と云ふ英画の画を学ひ宝暦の比より深川に住する由葬
後の図を画る日の巻物祇福寺に数多あり深川に住する由葬
五六才なる後十才なる頃既に通じ世に奇童と呼
惜ひ外十七才なる年小石川光岳寺に葬る由葬法名著言と称す
称大二郎弱冠
法名を雄と称す　○同廿五日浮世絵師石川秀範豊信卒　号哈町旅舎ともゝ七名清と
法名を雄と称す　○六月朔日より九月朔日迄田向院にて浅草清源寺釈迦如来開帳
葬る



内年号殊に甚しく紀年集　○六月十五日より湯島社地にて武州野島地蔵
開帳事　○月日より七月廿四日迄年所一ツ月八幡宮旅所にて上州鈴林院林寺
号開帳　○月日より七月廿四日迄年所一ツ月八幡宮旅所にて上州鈴林院林寺
十一面観世音開帳　法名崔ヶ谷福蔵寺を　○七月十日儒師大鹽鼇渚卒　名良祐　法名鼇
六才幽隠院中
初白院と葬る　○夏より秋迄旱魃作○三股中洲に築出し地出来又南
国橋向築出し新地川巾八十四間南の方十三間除あり年新一ツ月より逆井
迄川後の土を以築る所の寛政元年に至て元の如く川と成る
○九月東本願寺再建成就遷仏あり○八月十日加藤枝直翁卒　女和
田向院に葬る
千蔭翁の父なり　○九月十日より深川霊雲院にて水戸徳川家園にて越禅師大明神
東天妃弘法神関羽像開帳并関羽所持の令市雲徳所持の五瓜月琵琶出
○十月十九日儒師久保盛孝卒　名仲通　孫二郎左衛門　五十六才
十六才谷瑞四郎と葬る

同　六年丙午　十月国

正月元日丙午巳午一刻より未一刻迄日蝕皆既闇夜の如し

○正月廿二日昼九時湯島天神裏門より出火西北風烈々三組町妻恋社神田明神門前風閣を延て旅籠町辺門外神田より通町筋本町通日本橋迄東小田原町堀江町小網町幸町茅場町丸屋茶屋辺大伝馬町小伝馬町を焼き浜町浜町河岸川へ飛火熊井町相川町大島町辺八幡宮一ノ鳥居仲丁辺焼亡翌廿三日暁猶烈る聖堂神田明神本社社殿

○同廿三日風烈々く午刻西久保大養寺より出火赤羽根倉町を焼失ち焼い光院其外焼亡仏光より飛火て田町海岸迄焼る由中刻鎮幅三丁長十五町とい〻○同廿四日夜神奈川宿三百軒の餘焼る○同廿七日午刻本所四ツ目より出火釜屋堀迄焼る○当夜本川御門外失火なり

○二月二日荷田春満の女蒼生卒卒学問学ぶ者〻和歌を よく仮名を能くす

小石川蓮華寺谷指谷町一丁目より出火乾風強く丸山辺仏子町本郷元町江茶水春日町新焼歌舞伎町焼る○同向院あて上総国あ田村称念寺焼伝説如来開帳○谷中延命院七面明神開帳○二月廿三日相模箱根山鳴動し廿四日の夜地震甚し〻百度計震ひ〻と云○三月より饑国も親世子開帳○三月十日夜中雪降り櫻の花も積る○三月廿二日浄瑠璃語元祖義賀若狭掾死亡年才祭礼繁し霍乱といふ浅草田圃幸竜寺義賀

○早春より四月の半迄雨あく日〻烈風あり諸人火災の患のみあり安きこと能わず

○五月の仏より雨降く隔日の程あり〻しが七月十二日より別て大雨降続て山水なのまに〻洪水と成まり十三日十四日より牛込小日向辺石切橋辺武家方屋敷迄人〻乳文も水あり小石川辺谷地あるを抑て戸数下家流れ江戸川水勢たゞ〻く橋の流るもあり神田上水掛樋危く大勢の人夫を以て防ぎ〻む後樋の上を天程水来り〻しが十七日十八日より少〻減し〻り目白下山崩れ上水樋つぶれ水乏一月の餘絶る因て橋筋遠橋危く和泉橋仮橋右流れ十五日より大川あ住出あ小塚原い水五尺もなるべし〻あ住大橋住来留て掃部頭新宿軒迄水あり本所深川いと低く流れ平井吏地辺水一丈三尺と云大川橋あ橋危く

十六日住来留る十七日至り大橋中の間に間流失永代橋古石柱流失隅田堤ハ石柱流失
押切男女江戸へ向け両国橋を渡り逃走り浅草辺に船を住居せり吉原の廓水よる難
同谷太水にて怪事人多し　○谷中辺の人家一面に水さつて船を繋せり　○除
石垣土手の崩れしハ数多ありしなり　官府より助船を出し救ひ遣ハ
十八日雨霽る　○両国橋小船を建られ被民を救ひ遣ハ十九日より晴天となり廿日より
水出し　○廿六日に水乃し　○廿七日より両国八丁堀を立近辺の洪水ハ
ことゝ水乃し　○廿八日より両国橋ハ
夏翔の新板絵　○絵價弥増す

○夏より冬ハ引き続き両国仏像出人困窮す　○七月中旬江戸中焼　油売切る

○浅草ハ八月院門前ハ多く市となりの菓蔵の根を以割麦の如く製し
夫食とし又葛の如く製して食ハ
ハ九月の末より五穀殊に近き麦弘む　○青山堀太郎い鮫ヶ橋より口
渡る権左衛門の東とゝいふ古き碑あり　○碑を権左衛門といふ暦
應二年乙卯八月九日とあり　○此碑を安藤大将現と崇む今年伊のとして
ら来給人多しとぞ



## 天明七年丁未

正月十六日俳人木丹卒　○正月十七日昼八時青山より
出火西南大風権左衛門鮫ヶ橋千日谷辺迄焼　○二月南瓶人釈迦嶽雲右
衛門十三間堀の時代弁慶橋右衛門深川永代橋八幡宮の後ハ雲右衛門
つゝ月の丈ハ等しき碑を立る　○二月八日医師山田園南卒
卒余才名正珍林宗後時代と名あり　○二月廿九日俳人珠来居士卒
谷中南蛮寺葬ル　○五月屠龍寺高谷浅草寺新寺堂一新政治年太郎退治の図を
画く額を納む　横二間竪九尺ばかりの額ハ甲冑を外故実を失ひ
る由ハ人もれと古事を洞もせるハ人物の活動普通の画匠のなしハ
○五月ハ米穀ハ多ハ高く　○賣米商ハ繁盛
なるべく門戸を閉ち廿日より廿九日迄雑人米屋酒店ハ家米穀を狩人
なる家ハ打毀ハ事繁し　○此時人の大若流なりとハ家能器械を打毀ハ働記
者のことゝ云ハ童まで

国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b　ガラス使用

宮府より厳しく制しめひ町うみて弓竹柵を構へ数多園厳室あり〜しかべ
簡略の結ひり ○五月賊民一揆を教として金子を掠り六角米大豆小豆を以て
貴しめらる ○八月十三日儒学者小沢蘆庵卒 名政敬称多門弱冠
書家伊谷光悦卒 宋万年号匡山 法名卒年詳ならず ○八月廿二日谷中感応寺
赤叡山時の種を移植む月廿八日雲の時始て撞く ○九月七日俳諧師
雲中庵夢太卒 七十大大島氏名陽喬宝暦居士 ○九月十二日井の水毒なりと
ふ妖言ひろまる ○十月九日暁外新吉原角町より出火して廓中殆
び焼亡花川戸迄類焼 仮宅大楼例深川新地八幡宮中洲蛤町永町宮地本町
○神田明神祭礼十月ふ延る再延引して十二月三日ふ渡る是時ふ為
天明八年戊申
○五月元日大雪降 ○正月廣東人参賣買を停止せしをゆるしかふ

○四月朔日より深川浄心寺ふ身延山祖師開帳 ○月十八日より浅草
店 [illegible] 池上旅宿祖師開帳 ○四月十一日夜戌刻光物飛ふ昼の如し
○五月八日儒師太田維翰卒 東師の天に登衡が子 芝天徳寺ふ葬る
西山宗光寺ふ葬る ○七月十六日書家極楽寺梁卒 名称号然斎居士 浅草法永寺ふ葬る ○八月廿一日書
家関敬明卒 号東山 称彩義 小日向称名寺ふ葬る ○十二月寺院を命じ〜ぬ浅間山焼奥州
飢饉疫病関東出水京都大火焼死溺死ふ代褐ふ罹りしものあふ施餓鬼
を修せしめらる 江戸八幡宮所田向院小石川伝通院 ○今年正月晦日洛東
国栗辻より出火して洛中洛外大内を焼き上りこの大火の事を委曲ふ
法しく記録彩色ふ彩せる板本三巻あり
又大典禅師卒安芸狩俊の記をかくつくる

## 此年間記事

天明の頃名家 △儒家 金峨・旭山・芝山・北海・崔鳴・瓶山 △詩人 西野・僧
六如 名慈周 △書家 其寧・東江・新和・政顔・韓天壽・牛山 △和歌 千蔭

春海 自寛 重助 伊田 清右林 △画家 宋紫石 嵩谷 嵩渓 莫蓉 山良 楊氏 秋山 横井氏 △俳諧 蓼太 完来 炳麻 珠来 得器 金羅 貫河 言武 祇尹 白雄 △狂哥 四方赤良 蜀山人 朱楽菅江 元の木阿弥 大孤裏住 宿孤 飯盛 康津 祝宝 彭孤 金持 きら綿 鶏 △戯作者 通笑 春三 二 京川美明 狂哥兵 浮世絵 芝全交 万象亭 二代目風来 唐来三和 右ハ人を誠作者 山人 の古家撰といふ外可笑七珍万宝箱の唐丸 観水堂 大阿 芝葉 樹下 石上 ありて ありてなり △江戸浮瑠璃作者 紀の上太郎 笑象亭 二代目福内鬼外 好貫 四容 揚賤 玉泉堂 鬼眼 秋治 馬馬 外多 △琴曲 山田検校 △八人藝 川島哥麿 ありる外多 哥遊 ありり ○天明の頃地口の変態 ありく 諸流 といふ 京 ありる ○天明時代の ありり 物を集 江戸名物 ありる 外多 と 記せる 紙 ありり 合巻の画 又 数百 日五年 梓行 ○ 寛政 二 七 記 △ 浅草 曖 於 △ 中町 色紙 豆腐 △ 味噌 孤 元結 △ 中々 翻 宝

△ 寄 比丘尼 繋 彫 △ 油町 紅 袷 △ 白木 呉服 △ 中町 益田 同 茶 呉 美 香 △ 彼 岸 塗 物 △ 清水 夏 寝 猪 △ 初 化 傳 △ 赤坂 元 ゆ ゆ こ △ 浅 芝 茶 筌 △ 芝 三 宿 俗 △ 横 町 町 花 菖 蒲 △ 孫 右 衛 門 町 雪 せ ん ば い △ 浅 茶 義 市 △ こ ま 坊 △ 吉 原 朝 日 の ま ど △ さ ん 茶 女 郎 △ 同 黒 作 △ 鈴 ヶ 富 士 国 貞 △ 麹 町 助 兵 ゑ き △ こ ろ し 屋 △ 鈴 木 主 水 清 が 俗 △ 赤 坂 弱 △ 長 坂 元 結 △ 杉 井 源 右 衛 門 屋 台 △ 個 商 茂 △ 吉 原 右 祝 楽 △ 麹 町 歌 △ 湯 島 書 人 桑 の わ り の こ △ 浅 草 祈 孤 院 伍 信 子 △ 吉 原 の 幾 世 候 と 俗 な ぬ と ま ま 品 ハ

大原孤孫四郎 日本橋茶社 武義孤権三郎 日本橋とりふ 甲子屋 生徒 四季庵 中徒 新地 二 新茶屋

永代 百川 いせ町 山内 裏川岸 井筒宗助 浜川 武井 浜徒 井信と 呉八 難 髪 七 祝 阿弥 と 京 丸 山 の 茶 ち ま 阿 の 孫 と い ふ る 様 ふ り ま ま ま ま ま 遊 ひ ま ま 或 者 ふ り 望 陀 院 覚 と い ふ る 文 字 を 遊 ば ま ま 額 を ま ひ め ま 次 の 屋 商 も ま ま ま ま 遊 ひ ま ま ま ま ま

寛政以来
これなり　○下谷に殖る座中楓樹数株あり毎秋斜陽を借しむの名所なりしか
昔は紅葉うんとのべ尚もあるとかゝる程なれ〳〵とかり○鶴貫井の事昔は文ふ
ゝ〳〵中古より始りしれど武家うるこれなれ〳〵こと優れ金三四百両を費しける
在市中まは大高家なれ〳〵では海〳〵ちり〳〵なれの所なるや大坂より井戸掘工来て
簡易の法を以て速に掘り優も又下直之近比は江戸中掘抜井多くなり町毎ふ
大うこれあり　元禄の江戸繁昌ふ浦町より諸の井といふるれる況あるり日本橋より始め新橋
のあるまて二反月の長堀のとりは式井を設で系碑三を青形二幾る始て高貴なる者
ゝ〳〵中は寓家の主婦技の井を穿て結水ふ〳〵ふ美り是を砂子孫ふ伝ふる者ふ世のく称て壊の
井といふと記せりこれらもて抜井のまたくゝ〳〵〳〵を知るべし又元禄の比高家は井戸〳〵砂利掘
田圃のあるうゝ汲ゝ〳〵で紀伊国屋文左衛門屋敷町尾張屋敷十郎方まて始て掘ぬき井をうくを
〳〵ら千俵数百金を費せるを時の人奇怪とせり式水漏浅命じて井戸ありて中の町の素ふ海井戸を掘ける
通の留りある所水脈ふ入りを〇天明の始より京烏丸枇杷殿家沒重宗彩〇抜井行る〇女髪結抽
の家髪を結る〇林田佐橋本町山東といふ料理屋ふて〳〵ホク料理をゝ〳〵るるまるゝ料理の初て〳〵
時和の比より世ふ行れしふ浪花の光帰るまるゝ料理茶屋の始なり
〇天明中粗ふ殊ふ行れ〳〵氏時世の粗ふを集めて万載集題和ふ後万載集文政年系系系系のといふの
を始として世後の集数を知るべし各世ふ行れり

武江年表巻之六終

国立国会図書館　タイトル『武江年表 : 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『武江年表 ： 8巻』 請求記号 213.6-Sa222b

ガラス使用